

市指定史跡 仲道の三番アコウ

石垣市指定史跡仲道の三番アコウの概要

八重山の人々の心情を歌ったとぅばら一ま。そのゆかりの地に仲道の三番アコウがあります。

かつては、登野城のはずれ約100mの場所の分岐点に一番アコウ、さらに100m先の分岐点に二番アコウ、そして、この三番アコウと続いていました。現在は、この三番アコウだけが残されています。

これらのアコウは、道しるべとしての役割だけでなく、アコウが作る心地よい木陰は、行商の人々の憩いの場としても利用されてきました。

仲道の三番アコウの近くには、とぅばら一まの碑が建てられています。元々は別の場所にあったものですが、仲道に移設されたそうです。なお、有名なとぅばら一まの歌詞に、仲道のことが歌われています。

なかどう道から ななけーら かようけ 仲筋かぬしゃま そうだんぬ ならぬ

(意訳) 仲道道 (なかどうみち) を幾度も通っても、仲筋家の愛しい娘と語り合うこともできない

なお、仲道 (なかどう) は、石垣市字登野城の小字名です。その地に残され、住民たちに親しまれてきた三番アコウは、1991 (平成3) 年に、石垣市指定の史跡となりました。



仲道の三番アコウととぅばら一まの歌詞が刻まれた碑



仲道の三番アコウを見学なさる皆さまへ

三番アコウ付近の道路は幅員が狭くなっています。また、見学のための駐車場等は完備されておりません。

その点をご理解の上、見学して頂きますよう、お願い申し上げます。

また、旧暦の八月十五夜のの前日には、とぅばら一ま歌碑の前で、「なかどう道ぬとぅばら一ま祭」が開催され、多くの参加者や見学客が訪れます。

この時には、特に、車の乗り入れにはご注意ください。